

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「楽楽」
(ユニット名)	Cユニット
所在地 (県・市町村名)	新潟県燕市水道町1-13-31
記入者名 (管理者)	久住 元也
記入日	平成 20年 7月 18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作成し、玄関に掲示することで、家族、入居者、来園者などに広く周知している。		
	理念の共有と日々の取り組み	玄関に掲示することで、日常の中で理念の共有はできている。ユニット会議で話し合い、実践の中でより確実に行えるよう取り組んでいる。		入居者を中心とした視点でいられるような自分のあり方を見つめ続け、より明確な職員一人一人の意識付けを行っていく。
3	家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の集会に参加し、理解を得られるよう働きかけている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎月1度お茶会を開催し、地域の方にお茶を点てて頂いたり、参加を促し来園頂いている。		
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、行事に参加している。近くの神社での祭りでも、何人かで散歩がてら立ち寄り、地域の方々と楽しく時を過ごしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	集会に参加しているが、相談を受けるまでには至っていない。自治会長ともよく相談し、プロとして地域の皆さんに還元できるよう働きかけていく。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は、改めて地域との関わりや施設運営を見直し、管理者並びに職員は、入居者、家族に対するケアの見直しの機会と受け止め取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、その都度現況報告をし、取り組みへの意見を求め、改善への助言を頂いている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当者と機会あるごとに連絡、相談をし、助言を頂いている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	指導的立場の職員を研修会に参加させ、施設にフィードバックしている。現在、成年後見利用者が数名おられ、後見人から来園の度に意見交換を行っている。		積極的に勉強会を行い全職員が周知できるようにしたい。研修会があれば、これからも参加できるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループ内でも勉強会を何度か開催し、ユニット間でも虐待など起こらないよう相互に監視し、遠慮なく意見が言えるようにしている。		職員は当然の事として取り組んでいるが、虐待防止を目的とした勉強会を積極的に行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>社会福祉士が担当し、重要事項を含め十分に説明を行った上で契約を結んでいる。また、いつでもご相談頂けるよう働きかけている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の声にはいつも耳を傾けているし、不平不満にはいつも一緒に解決するようにしている。運営推進会議に入居者代表に参加して頂いており、遠慮なく意見を言ってもらえるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報での近況や、面会時には現況報告を密に行っている。また、健康状態の変化が見られた時には、必ずその日のうちに電話により報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情窓口を設置していることを入居時に説明し、意見、苦情、不満等あった場合、速やかに対応できるような体制をとっている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回の全体会議と月1回理事長、相談員、ユニット長での会議を開催している。他にも個々の職員が気軽に相談できるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時及び平時でも管理者には連絡が入るようになっている。管理者からユニット長に連絡調整をし、いつでも対応できるようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者には、結婚等プラスのイメージで話をしている。新人職員は、早番、遅番でカバーできるよう、もしくは日勤2人体制が取れるよう勤務調整している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修として、理事長から直接指導を勤務時間内に連日行い、必要に応じてグループ内別施設での研修も行っている。更に、スキルアップのために研修会、講演会への積極参加と、施設へのフィードバックとして、伝達講習を随時行っている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所の担当者を交え3ヶ月に1度の管理者会議。相互訪問など同一地域のGH交流研修も行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	入居者の受診時やホームに運営者が来られた時、必ず職員に話しかけ、最近の状態など変わったことがないかと心配して下さったり、いつも気にかけて下さる。また、仕事上の設備の不具合や備品の不足にもすぐに対応して下さっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	月2回の全体会議と月1回理事長、相談員、ユニット長での会議にはほとんど参加して、アドバイスを下さったり、現状把握に励んでおられる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には、必ず社会福祉士である職員とユニット長、相談員により本人と面談を行っている。また、本人に直接見学に来て頂くケースも少なくない。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談員からの情報、面談、来園と密に行い、できる限り不安の軽減に努めている。また、来園時には入居予定ユニットを見学頂き、他入居者の様子や職員との関わりを見て頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人・家族の状況を見極め、家族の要望なども聞き入れ、他サービス利用案の助言を含め状況に応じた内容への支援を行うように努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学を行い、雰囲気を見ていただいている。入居後は一日の様子を細かく記録し、職員間で共有できるようにし、ご家族にも報告している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者を家族と捉えており、おじいちゃん、おばあちゃんであったり、お父さん、お母さんであったりするわけで、喜びも悲しみも不安感も共有できるケアを実践している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状況を伝えることと共に、直接、間接的に家族の悩みなどをベテラン職員が聞き出し、共感し、一緒に取り組んでいくことを確認できるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の生活歴、嗜好、日常生活をお聞きしていく中で、家族との関係を汲み取り、今まで以上の関係が築けるよう、外食、外泊、行事への参加を促している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散髪など行きつけの美容院等は家族と共に行ってもらっているし、買い物に同行していただく場合などは、自宅付近のスーパーなどを利用している。		今後も関係の維持や、馴染みの物や人を大切にしていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	状態の違う入居者も多い為、その人に合わせた状況でセッティングし、多くの人と一緒にできるよう努力している。できない人には、職員が寄り添い、孤立しないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院時などは、入院まで付き添いやお見舞い、グループ内の移動であれば移動まで関わる場合もある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でニーズを把握し、添えるようその都度ショートカンファレンスで話し合いをする。更にユニット会議で検討し、必要であればケアプランに上げ、全職員がわかっている体制作りをしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は家族からも詳しく聞き、日常会話ではじめて聞くことがあれば、家族、知人が来園時確認するなどしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや作業日誌、業務日誌に詳しく記入し、補足説明することにより情報の共有化を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者に対し担当を一人置き、毎日の生活の中でニーズを探り出す。ユニット長が認定調査の際家人の要望を聞き取り、担当と話し合う中でプランを作成する。ケアマネージャーに相談し、最終的に作成したものに家人から納得してサインを頂いている。更に全体会議でも理事長、相談員の意見ももらって反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時モニタリングを行っている。又、本人の状態の変化に応じて、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録、業務日誌、作業日誌、申し送りノートに記入し、ユニット内だけでなく、施設職員全員が共有している。		今後も細かいアセスメントをして、さらに日々のケアに反映していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループ内での連携を強化し、情報を柔軟に処理・活用する体制ができており、家族からのいろいろな要望に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月1度お茶会を開催し、地域の方にお茶を点てて頂いている。消防とは年2回の避難訓練時に立会いも依頼している。近くにある文化会館の催しには、興味を持ち参加したりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループ内で話し合いを持ち、必要な方にはりハピリなどのサービスを実施している。又身近なところで、外出が困難になってきている方には、訪問理容サービスなどを利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	市との話し合いの中で、市側がいろいろな場面で情報提供やアドバイスをしてくれている。現況、地域包括支援センターとは、連絡、調整は行っていない。		相互の意見交換の場を積極的に設けるなど、情報交換をしていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が開業医であり、毎月定期受診をしている。状態の変化に即時対応できる状態である。更に訪問看護は随時来園してくれているし、ちょっとした相談にものってくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が医師であり、認知症ケア専門士で、受診時はもちろん、1週間に1～2回は来園し、業務日誌などの確認や、その時点での変化に相談にのってくれている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと契約しており、定期的に訪問、電話連絡にて専門的な視点での指示やアドバイスを受けることができ、適切な処置を受ける体制が確立している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族からの情報、主治医、老健の相談員などから逐一詳しい情報をもらい、退院後の体制も臨機応変にし、本人、家族に安心していただけるよう配慮している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際には、できるだけ早い時期に家族と相談し、希望に添えるようにしている。今後の方針について主治医、家族、職員と話し合い、意思確認を行ったうえで終末期の支援を行うことを入居時はなしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の入居者がより良く過ごせるようホームでできる・できないを見極め、主治医に相談や往診を仰いだり、訪問看護との連携などチーム全体で生活を支えるよう努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去時には、管理者、ユニット長、家族との話し合いが行われ、本人の状態や家族の希望を十分に確認し、本人に合った環境と考えられるサービスへと移行している。必要に応じたサービスの先への連絡・調整も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>共同生活の中にあっても、個人のスペースを守るようにし、場合によっては居室に鍵をつけている入居者もある。個人個人を見極め、距離を早くつかむようにしている。記録、情報に関しては外部に漏れることの無いよう管理している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の意思決定を重視している。意思の疎通が困難な方であっても、生活歴などからある程度想定し、できるだけ意を汲めるよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員同士が日常的にケアの検証を行い、利用者本位の支援の充実に向けて、その都度改善・修正を行っている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>基本的には行きつけの理容店を利用している。また家族と行きつけの美容院に行かれ本人の望む店に行けるよう努めている。又、外出時や誕生会などは化粧などしておしゃれができるよう支援している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>なかなか遠慮がちで食べたいものを言って下さらないが、メニュー作りに協力してもらったり、ほぼ毎日の買い物に同行してもらっている。調理が得意な方、味見が得意な方をお願いしたり、配膳、下膳は当然のことのようにやってくださる。食事の際は、職員も一緒に会話を楽しみながら摂っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>健康に問題ないように楽しんで頂いている。タバコは、喫煙所を設けている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の状態に合わせ紙パンツやパットを使用しているが、一人一人の排泄パターンの把握、表情、しぐさを観察し、声かけ・誘導を行い、できるだけ失禁のないように努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に2日に1回で入浴して頂いている。希望や体調面を考慮しながら、臨機応変に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの方のペースで休んで頂いている。足のむくみ等ある方には極力横になること勧めるが、強制はしないで過してもらっている。夜間は、皆さん良眠されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴情報を基に、日常生活で本人の好きなこと・得意なことなど力を発揮できる機会を作り、取り入れ、互いに楽しみ、頼られる喜びを感じていただけるよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理しておられる方もいるが、ほとんどのかたが無くなって困るとのことでホームの方で管理している。本人がほしいものがある場合、一緒に買い物に行き支払いをして頂いている。		今後も本人の能力を見極めて支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課の買い物や近所への散策など、希望に添えるよう努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得ながら自宅に外出、外泊、墓参りに行けるように支援している。入居者の気分や体調に合わせ、ドライブや地域のお祭り等にも行っている。		家族を巻き込み大勢で出かける機会が現在はない為、行事担当者がユニット長、管理者と相談しながら実現していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がきたときには出してもらい、旧知の友達であれば、大勢で思い出話を花を咲かせ、手紙が届いたりしたときには、返信する際お手伝いし、近くのポストへ投函するまで付き添うようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂いている。訪問の際は、現況を簡単にお話し、戸惑うことがないよう配慮している。お話は、リビングでも居室でも自由にして頂き、お茶をお持ちする以外極力邪魔にならないようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束、抑制はしないケアを日々実践している。他ユニットの職員が応援で入ることで相互抑止にもなっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	8時30分から17時30分まで開錠している。ユニット入口には扉開閉時鈴が鳴るようにし、職員、事務員が対応できるようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間での情報共有、所在の把握、自然な形での見守りでケアにあたっている。予測できる危険を職員同士話し、意識を常に持ち注意しなければならない時間など確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所回りの危険を伴う備品や薬品は使用時以外、入居者の目に触れないようにしている。タバコに関しても場所を指定して管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の行動、状態を把握し事故はあるものと常に意識をもち変化を見逃さないよう取り組んでいる。また事故報告書に目を通し、そのとき起こったことに対して、カンファレンスを行い協議し、対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人研修時に理事長から直接蘇生法の指導をしてもらっている。訪問看護来園の際、指導を仰いだり、職員間でも個別に勉強している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練時消防署員の立会いをお願いしており、改善に努めている。		施設内の訓練はできているが、近隣住民との協力体制の整備を推進していきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の状態報告をこまめに行い、その時々状態を理解していただくよう説明している。又、ご家族と一緒に対応策を考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に容態観察を行い、個々の体調変化や異変を見逃さず、気付いた際には速やかに職員同士で観察、看護師へ報告し、必要に応じ、受診し対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルしいつでも確認できるようにしている。毎日その日の担当が1日分の薬をセットすることで、内容を把握し、誤薬を防いでいる。薬が変わったときは、申し送りノートに薬名と服薬回数、量、諸注意を明記し周知している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便を促しやすい食材を使用したり、牛乳やお茶などで対応している。が、どうしても便秘がちな人には、処方された整腸剤や、個人に有効な漢方薬などを服薬頂いている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声かけや介助、義歯の洗浄などを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは、食事係りが偏りがなく、できるだけ好みのものを出すよう気をつけている。食事量、形態は個人の状態に合わせて提供している。水分摂取量の少ない方には、ゼリーなど形態を変えて摂取頂いている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日常の手洗いの徹底、うがいの実施、感染物の取り扱いには手袋着用など注意している他、時期により、インフルエンザ・ノロウイルス感染を持ち込まないよう早期に受診し、休みを取るなど予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理者は、キッチンに入る前手洗いを必ずし、清潔に努める。まな板、包丁の熱湯消毒や購入食材は使い切るようにし、残ったものは冷凍保存後、早めに使うよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	理事長の生家に建てており、庭はそのまま残してある。池もあり、近隣の子供たちが見に来ることも度々ある。更に小さいながらも畑があり、果樹を中心に植えてある。玄関へのアプローチには、草木や花が咲いており、施設のイメージがないようになっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けをしている。キッチンリビングと対面になっており、包丁の音や煮物、焼き物の香りで刺激している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが過ごしたい場所で、過ごしたい時間に、過ごしたい人と共にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や道具を持ち込んで頂いている。安心して過ごせるよう工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温・温度には十分配慮し、空気の入替え、加湿器の使用にて心地よい環境を確保するよう努めている。又、その日の天気、気温に合わせて暖房、冷房の温度調節も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレには手すりが設置、浴室には手すりの他滑り止めマットが設置され、自立支援と安全に生活が送れるよう工夫されている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	何でも職員が手伝ったり、介助したりするのではなく、本人の、有する体力や身体機能でできることは、できるだけしてもらっている。また、介助する場合でもさりげない介助を心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にある池に金魚のえさやりや花や木などを見て、日光浴が楽しめるよう配慮されている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

チームワークを大切に楽しく、明るい自然な雰囲気の中で入居者中心の生活が支援されるよう努めている。
相手の存在を認め合いながら、日々の優しさや、感謝の気持ちを忘れないなどの気持ちを持ち続けられるよう取り組んでいきたい。